

人類文化学科生のみなさんへ

2019年度「考古学実習 B」説明会について

考古学を学ぶ上で、フィールド調査はきわめて重要な意味をもっています。自分の脚で遺跡を歩き、遺跡や地層などを目で見て、手で触って情報を集める。過去の人類が歩いていたのと同じ地面に立ってみる。これによって本を読んでいるだけではわからない、彼らの文化を知る手がかりに出会えます。特に発掘調査は、特定の研究目的にそった情報を自ら獲りにいけるため、文化人類学におけるフィールドワークや自然科学における実験と同様に、考古学の研究を支える柱になっています。「考古学実習 B」では、授業担当者が島根県で実施している旧石器時代遺跡の発掘調査に学生の皆さんにも参加してもらい、発掘調査の技術や方法を学んでもらおうという授業です。

授業は夏休み後半の2019年8月28日（水）～9月4日（水）に、島根県松江市にて実施されます。授業担当者は2017年度から宍道湖南岸にある鳥ヶ崎遺跡で発掘調査を続けており、これまでに約12万年前の地層、約4万年前の地層から、旧石器時代のこの地に人類がくらしていた証拠を見つけています。今回の授業期間では新しい発掘調査区を設け、さらに旧石器時代人の文化に迫る予定で、現在、島根県の担当部署と協議中です。

この授業は遠方に滞在しての屋外調査となるため、履修者の負担は通常の授業に比べて大きなものとなります。島根県松江市までの旅費、宿泊費、宿泊先（松江市駅前）から遺跡までの移動費、毎日の食費をはじめとして、授業に参加する上で必要となる出費は、原則すべて履修者の個人負担となります。

この授業は予備登録を行いますので、関心のある学生は下記の説明会に必ず出席してください。また調査や自己負担金の詳細についても、下記の説明会で説明します。

意欲ある学生の参加を希望しています。

授業担当予定者：上峯篤史

記

フィールドワーク説明会

- 1) 開催日時：2019年5月8日（水）12:45～13:15
- 2) 場所：第一研究棟4階 人類文化学科合同研究室横415会議室

以上